

2020年1月16日

四国電力株式会社

取締役社長

長井啓介殿

伊方原子力発電所所長

川西徳幸殿

伊方から原発をなくす会

代表 近藤亨子

抗議文

伊方原発3号機定期検査での人的事故に抗議し廃炉を求めます。

2020年1月7日、四国電力と愛媛県が2017年10月に行った定期検査で、燃料の取り出し後にすべき放射性物質の流出を防ぐための空調装置の点検作業を誤って取り出し前にするミスがあったと発表。続く12日、愛媛県が定期検査中の伊方原発3号機で、燃料集合体取り出しに向けて上部の構造物を吊り上げ作業中、本来は燃料集合体に残すはずだった制御棒1本を引き上げる異常が起きたと発表。

この2件を私たちは、『ミス』でも『異常』でもなく『人的事故』であると考えています。貴社をはじめ全国の電力会社が、『事故』を軽微に感じさせる言葉を駆使して原発安全神話を捏造してきたからです。

貴社は、この2件の事故に対して「環境への放射能の影響はなかった」としています。環境への放射能の影響がないことは当たり前のことです。環境に放射能の影響が出れば、私たちは被曝するのだから、大変なことです。問題は、貴社が放射能を撒き散らし「環境の放射能汚染」及び「地域住民の被曝」をさせる可能性がある『人的事故』を起こしたということです。

放射性物質の流出を防ぐ空調装置は無検査で3年間も原発を稼働させる。核分裂を抑制する制御棒は7時間も吊り下げっ放しで気付かない。この2件の事故、そして「環境への放射能の影響はない」と開き直す貴社の体質に、改めて驚愕し背筋が凍るような恐怖を感じています。

ご存知の通り、放射能は時空を越えて自然環境も全て生命をも汚染し続けるものです。そのような一度野に放たれば取り返しのつかない放射性物質を取り扱う貴社が迂闊で杜撰であるということは、私たちを取り巻く自然環境も生命も常に危険に曝されていて、絶え間ない恐怖に怯える日常生活を強いられているということです。

貴社が社員及び下請け会社に対して、就業教育や安全教育をしていることさえ疑わしくなる今回の定期検査での人的事故を通して見えてきたものは、何の根拠もない原発安全神話がまたぞろ四国電力の各部署に蔓延してきているということです。定期検査という安全を担保する場においても、「原発事故は起こらない」という思い込みが、緊張感のない漫然とした作業になり、今回のような初歩的な人的事故を起こし、更にその事に即座に気付くことが出来ない管理監督の無責任さも露見したのです。私たちは、この危機管理能力の低さに、そしてその裏にある私たちの命に対する軽視に、言葉に出来ないほどの怒りを感じています。あえて付け加えれば子どもたちを原発敷地内に入れることも、この危機管理能力の低さの表れです。

私たちは、この貴社の慢心が引き起こした人的事故に対し強い怒りを持って抗議し、伊方原発3号機の廃炉を強く求めます。